

現代版 更級日記：私の高校生活を記述する  
一更級日記を参考にして「題名をつけた高校生活の回顧録」を記述し、添削しあう一

- 1 科目名 古典B  
2 単元名 日記「更級日記」  
3 教材名 菅原孝標女「更級日記」門出  
(ワークシート①②③)

4 単元の内容

単元の目標  
と評価規準  
・評価方法

①単元の目標

- ア 女流日記文学への関心を持つ。(関心・意欲・態度)
- イ 文章を正しく読解し、作者の心の動きを知る。(読む能力)
- ウ 具体的で分かりやすい文章を書くことができる。(書く能力)
- エ 日記文学の文学史的な位置付けが分かる。(知識・理解)

②単元の目標設定の理由

- ・読書が好きな生徒が多数いる一方で、普段まったく本に親しむ習慣がない生徒もいる。物語にあこがれる少女の思いを読みとることで、本に親しむ態度を涵養したい。
- ・1年次より、古典知識や文法について繰り返し指導してきたが、定着に関しては個人差が大きい。音読など全員で声に出すときは大きな声で読むことができるが、一人で発表するときには声が小さくなってしまふ。相手に自分の意見を伝えようとする発表の仕方を身につけていく必要がある。
- ・近年、ブログやツイッターといった手軽に自分の日常を日記風に公開する手段が身近にあるが、自己表現と同時に他者への配慮、より推敲した文章とは何かを考える必要があると思われる。「文字で自分を表現する」エッセイの要素を盛り込む文章を書くことを目指し、そのために、「平明さ」(分かりやすく具体的に書く)「個性」(表現の工夫)といった読み手を意識して書くことを目標とする。また、「回顧録」に表題をつけることで、伝えたい内容を自分で常に意識しながら文章を書くようにする。グループで交換して添削することにより、よい文章の定義を明確にする。

③中心となる学習活動

- ・作者の心情とその心情が生まれた原因を本文を手がかりに考える。
- ・読まれることを前提とした回顧録を書き、グループで交換して添削し、読む人の立場に立った文章表現を考える。
- ・メリットとしては、読み手を意識した文章を書くことで、伝えたい内容を取捨選択することを意識できること。また、「平明さ」「個性」という観点を示すことで「よい文章」の定義が明確になることと考える。添削することにおいては、「よい文章」のポイントを考えることができるようになることである。
- ・デメリットとしては、古典教材を参考にして現代文で「日記」を書くことをどのように古典へ戻して結論づけていくかという点にある。古文の中の「平明さ」「個性」的表現を見つけることで、時代を超えて読み継がれる文章の力を感じ取らせていく必要がある。

④言語活動の工夫

- ・自己表現と同時に他者への配慮、より推敲した文章とは何かを考えるきっかけとして、2つの活動を考えた。1つは、更級日記「門出」を手本にして高校生活の「回顧録」を書き、読む人の立場に立った文章表現の工夫を目指すこと。もう1つは、友人の書いた「回顧録」を添削し「よい点」「改善点」を指摘することで「よい文章」の定義を理解することである。
- ・メリットとしては、読んでいて楽しい文章は「平明さ」(わかりやすい)「個性」(具体的)という点が入っていることだと分析できる力がつくことである。
- ・デメリットとしては、「改善点」を指摘するのに友人に対する「遠慮」があり、軌道に乗るまでに時間を要することである。集団として向上するために、お互いに忌憚のない意見の言い合える関係性を築いていくことを心がける必要がある。

⑤評価				
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	
	関心・意欲・態度	①文を音読し、文章を正しく読解し、内容を確認している。 ②青と赤の付箋にそれぞれ良い点と改善点を適切に書き込んでいる。 ③文章を書くということは何かを伝えたいということ自分で伝えたいことがその文章を読む人に伝わらなければならないことを実感する。	観察（机間指導）（発言）  点検（ワークシート・付箋）	ワークシート①を見るよう、促す。  赤の付箋（改善点）を積極的に書き込むよう、促す。チェックポイント別に書いてみるよう助言する。よく書けているものを紹介する。
	読む能力	①日記として工夫されている点をワークシートを確認しながら指摘できる。 ②ワークシート②についてグループで交換し添削している。	観察（机間指導）（発言）  点検（ワークシート・付箋）	前時の授業のノート、プリントを見るよう助言する。
	知識・理解	①本人に返却されたワークシート②について、文章が客観的にわかりやすく書けていたか、振り返る。 ②何かを伝える文章には、客観性、具体性が伴わなければならないこと、また、読む人の立場に立って分かりやすく書くことに留意する必要性を知る。	観察（机間指導）（発言）  点検（ワークシート・付箋）	ワークシート②を読み返すよう、促す。  書き込まれた付箋をよく読むよう、促す。よく書けているものを紹介する。
成果と課題	「自分を表現する」ことで自分は何に興味があるのか、どこに着目しているのかが明確化し、書くことによる「気づき」ができた。また、読者を想定して書くことで、自分を理解してもらえるように書くこと、つまり、読む人の立場に立って自分を伝える文章を書くことは大切だと実感することができた。日記文学は、日記の形式で作者というフィルターを通して語られる記録文学であるという点への到達までは、まだ理解不足の感がある。友人の書いた文について添削するというのも、遠慮する気持ちがあって取りかかりに時間がかかった。			
アドバイス及び留意点	①「題名を付けた高校生活の回顧録」ということで、自由度が高い為逆に書きにくいこともあったので、使うべき言葉や題名はこちらで設定するなどして限定条件を付けた方が書きやすかったのではないかと。 ②次時でもよいので、更級日記という古典の物語の中に戻していくことが、現代文と古典のつながりを付けていけるのではないかと。			
小中学校との系統性	(中学校・3年・B書くこと) エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。			

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○平安時代の日記文学の概要を知り、前	・平安時代の日記文学の概要を知る。【Cオ】 ・全文を音読し、脚注を参考にしながら前半を現代語訳する。	日記文学の概要を確認する。【知】 ↓ 点検（ノート）	教科書の記述に留意させる。 ↓ 歴史的仮名遣いの

	半を現代語訳する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>*留意点</li> <li>・適宜、語句・文法事項を確認する。【Cエ】</li> </ul>	<p>観察（机間指導）</p> <p>音読して、現代語訳をしている。【読・書】</p> <p>↓</p> <p>点検（ノート）</p> <p>観察（机間指導）</p>	<p>読みに、注意させる。</p> <p>↓</p> <p>語句・文法を確認させる。</p>
2	○後半を訳し、作者の物語への思いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を音読し、脚注を参考にしながら後半を現代語訳する。</li> <li>*留意点</li> <li>・適宜、語句・文法事項を確認する。【Cエ】</li> <li>・全文を再度読み、作者の物語への思いを確認する。【Cウ】</li> </ul>	<p>音読して、現代語訳をしている。【読・書】</p> <p>↓</p> <p>点検（ノート）</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>作者の物語への思いを確認している。【知】</p> <p>↓</p> <p>点検（ノート）</p> <p>観察（机間指導）</p>	<p>歴史的仮名遣いの読みに、注意させる。</p> <p>↓</p> <p>語句・文法を確認させる。</p> <p>↓</p> <p>本文に込められた作者の思いを確認させる。</p>
3	○本文の「平明さ」「個性」を理解し、ワークシート①に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を音読し、この文章の「平明さ」（わかりやすく具体的な文章）「個性」（表現の工夫）を理解する。【Cイ】</li> <li>・ワークシート①を記入し、〈題名〉〈日時〉〈登場人物〉〈セリフ〉〈心情〉を捉える。【Cイ】【Bウ】</li> </ul>	<p>音読して、文章の「平明さ」「個性」を理解している。【読・知】</p> <p>↓</p> <p>観察（発言）（机間指導）</p> <p>本文を分析し、内容を捉えている。【関】</p> <p>↓</p> <p>点検（ワークシート）</p> <p>観察（机間指導）</p>	<p>「平明さ」「個性」を具体例を示して説明する。</p> <p>↓</p> <p>形容詞に着目することで、心情を確認させる。</p>
4 (本時)	○作者の心情と心情の原因を考え、それを参考にした自己の回顧録を書き、添削し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、日記に書かれた作者の物語への思いを確認する。【Cウ】</li> <li>・高校生活の回顧録を書き、グループで交換して添削し、発表する。</li> <li>*留意点</li> <li>回顧録は家庭での課題として書いてくる。【Bア】【Bエ】</li> </ul>	<p>作者の物語への思いを考えている。【意】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>回顧録を交換して添削し、指名により発表する。【書・読】</p> <p>↓</p> <p>観察（ワークシート）（机間指導）</p>	<p>形容詞に着目することで、心情を確認させる。</p> <p>↓</p> <p>回顧録を添削する際、規準を立てて具体的に記入するよう促す。</p>

## 6 第 4 時の学習指導案

本時の位置	4 時間目（全 4 時間）
本時の学習目標	<p>ア 作者の心情とその心情が生まれた原因を本文を手がかりに考える。（読む能力）</p> <p>イ 読まれることを前提とした回顧録を書き、グループで交換して添削し、読む人の立場に立った文章表現を考える。（書く能力）</p>
事前の準備	<p>①ワークシート①をよく読んでくるよう指示する。</p> <p>②ワークシート②に回顧録を家庭での課題として書いてくるよう指示する。</p> <p>③意見の出やすい雰囲気を作る。</p>

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	□更級日記「門出」を読み、日記としての価値「平明さ」「個性」を確認する。	①本文を音読し、文章を正しく理解する。 ②日記としての価値「平明さ」「個性」を確認する。(前時にワークシート①で確認済み) ③〈題名〉〈日時〉〈登場人物〉〈行動〉〈セリフ〉〈心情〉などが具体的に書かれていることを思い出す。 ④冒頭より、この日記が読み手を意識して書かれたものと知る。 ⑤既習の日記(土佐日記)でも同様の工夫が施されていることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を音読することで、語句・文法事項を意識して文章を正しく理解させる。</li> <li>ワークシート①を振り返って「平明さ」(わかりやすく具体的な文章)「個性」(表現の工夫)を理解させる。</li> <li>冒頭部分が自己を客観化して表現されていることで、人に読まれることを予想して書かれたものであることを知らせる。</li> <li>既習の日記(土佐日記)も踏まえて、読み継がれる日記文学の存在した理由(事実の記録としてのみではなく、事実が想像によって濾過され作者の意に適するよう取捨されて成立していること)を説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>目標Aに対する評価規準と評価方法</b>            [規準]            作者の心情とその心情が生まれた原因を本文を手がかりに考えている。            [方法]            点検(ワークシート)            [状況Cの生徒への手立て]            「平明さ」「個性」に絞って考えるように促す。         </div>
展開 35分	□「門出」を参考にして家庭学習で書いてきた、ワークシート②「現代版更級日記：私の高校生活を記述しよう！」(題名をつけた高校生活の回顧録)をグループで交換して読み合う。 ・「平明さ」と「個性」を観点として添削し、付箋に書き込み添付する。 ・返却されたワークシート②と付箋の記述を確認する。 ・指名により発表する。	⑤家庭での宿題となっていたワークシート②  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>【現代版 更級日記：私の高校生活を記述しよう！】</b>            (題名を付けた高校生活の回顧録)をグループ(4人)で交換し、添削する。添削内容は付箋に記入し、添付する。         </div> <p>「平明さ」と「個性」を観点とし、付箋に書き込みワークシート②の該当部分に貼る。            青の付箋：良いと思ったことを記入。どういう点がどのようになぜ「おもしろい」「なるほど」と思ったかを記入する。            赤の付箋：改善点があると思ったことを記入。「よくわからない」「あれ?」と思っただ点をどのように記述したらわかりやすくなるか記入する。            付箋を貼り終わったら次の人に回す。付箋が同じ内容だった場合は同じ箇所に貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回顧録を「平明さ」(わかりやすく具体的な文章)「個性」(表現の工夫)を観点として、規準を立てて添削をさせる。</li> <li>添削した内容を相手に的確に伝えるよう付箋に記入させる。</li> <li>添削された内容を的確に把握させる。</li> <li>自分の文章を磨く手がかりを見つけさせる。</li> <li>発表を聞いて、自分の文章の参考にするよう、促す。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>目標イに対する評価規準と評価方法</b>            [規準]            読まれることを前提とした回顧録を書き、グループで交換して添削し、読む人の立場に立った文章表現を考えている。            [方法]            点検(ワークシート・付箋)            観察(机間指導)            [状況Cの生徒への手立て]  <ul style="list-style-type: none"> <li>回顧録を添削する際、規準を立てて具体的に記入するよう促す。</li> <li>自分の感じたことを相手にわかりやすく伝える為の手がかりとして「平明さ」と「個性」が考えられることを伝える。</li> </ul> </div>

		<p>(1)〈題名〉〈日時〉〈登場人物〉〈行動〉〈セリフ〉〈心情〉などが具体的に書かれているか。</p> <p>(2)読む人の立場に立って客観的にわかりやすく書かれているか。</p> <p>(3)書いた本人はわかっているが、初めて読んだ人にはわかりにくい、独りよがりの文章になっていないか。</p> <p>(4)客観的に書けているか、論点は、はっきりしているか。</p> <p>(5)良い点（青）と改善点（赤）を付箋に記入して貼る。</p>	
まとめ5分	<p>□ワークシート②と付箋を参考にしてワークシート③で振り返りをする。</p>	<p>⑥時間が来たら、ワークシート②を本人に返し、本人は添削されたことを読む。</p> <p>⑦指名により、発表する。</p> <p>⑧「門出」は、作者が十三歳の少女時代を「回想日記」の形式で、自己を客観化して真実を語ろうとする姿勢で書かれていることを確認する。</p> <p>⑨ワークシート②と付箋をもう一度よく読む。</p> <p>「自分を表現する」ことで「自分を知ること」また、読者を想定することで、他者に「自分を理解してもらうように書くこと」つまり、読む人の立場に立って自分を伝える文章を書くことの大切さを考える。</p> <p>⑩ワークシート③で、本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くということは、何かを伝えたいということ、自分が伝えたいことがその文章を読む人に伝わらなければならないことを実感させる。</li> <li>何かを伝える文章には、客観性、具体性が伴わなければならないこと、また、読む人の立場に立って分かりやすく書くことに留意する必要性を知らせる。</li> </ul>